経済動向調査

令和 4 年 12 月

能登鹿北商工会

◎景気の現状

◆日銀短観の業況判断ＤＩ（大企業・製造業、北陸３県・製造業）・１２月　《更新》
◆外食産業市場動向・１１月　《更新》
◆消費者物価指数（ＣＰＩ）（全国・金沢市）・１１月　《更新》
◆全国スーパー売上高・１１月　《更新》
◆景気ウォッチャー調査（全国・北陸）・１１月　《更新》
◆新車販売台数（全国・石川県）・１１月　《更新》
◆貿易収支（輸出−輸入）・１０月　《更新》
◆景気動向指数（ＣＩ）一致指数（全国）・１０月　《更新》
◆家計調査・１０月　《更新》
◆現金給与総額（全国）・１０月　《更新》
◆実質賃金指数・１０月　《更新》
◆鉱工業生産指数（全国・石川県）・１０月　《更新》
◆完全失業率・完全失業者数・１０月　《更新》
◆四半期（実質）ＧＤＰ成長率　・７～９月
◆法人企業統計調査（全国・全産業）・７～９月　《更新》

◎景気の先行き

◆百貨店売上高・１１月　《更新》
◆消費者態度指数・１１月　《更新》
◆実質機械受注（船舶・電力を除く民需）・１０月　《更新》
◆景気動向指数（ＣＩ）先行指数（全国）・１０月　《更新》
◆鉱工業在庫率指数・１０月　《更新》
◆新設住宅着工戸数（全国・石川県・地域別）・１０月　《更新》
◆新規求人数、有効求人倍率（全国・石川県・ハローワーク七尾）・１０月　《更新》
◆法人企業景気予測調査・１０～１２月　《更新》

◎人口

◆石川県、七尾市の人口　《更新》

◎延べ宿泊者数、入り込み客数

◆石川県、石川県・外国人・９月　《更新》
◆組合加盟宿泊施設・７～９月

◎レギュラーガソリン価格１㍑当たり小売価格

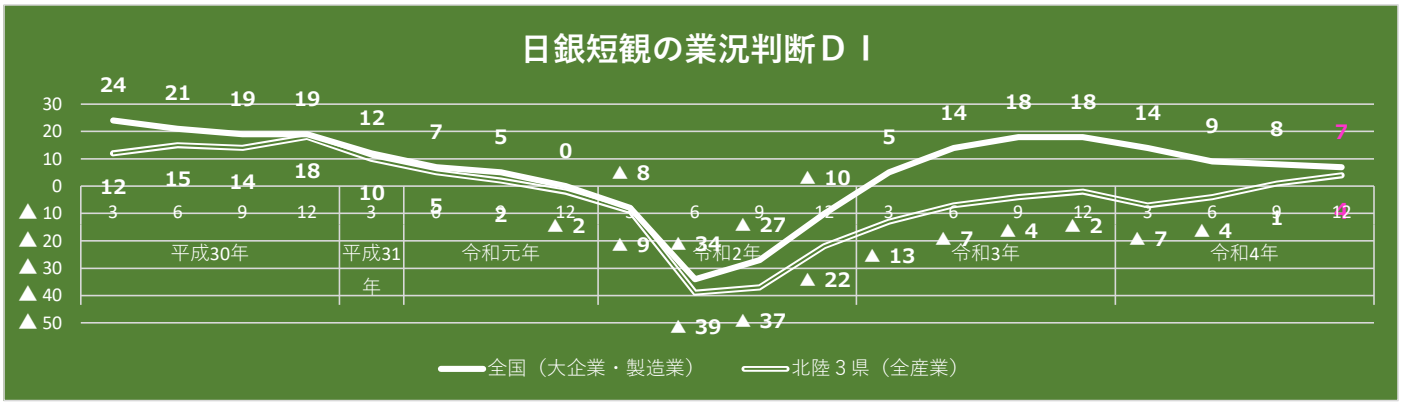
◆石川県の小売価格　《更新》

◎景気の現状

【１２月の結果】

◆日銀短観の業況判断ＤＩ（日本銀行：12 月 14 日発表）《更新》

【指標の説明】統計法に基づいて日本銀行が行う統計調査であり、全国の企業動向を的確に把握し、金融政策の適切な運営に資することを目的としています。全国の約 1 万社の企業を対象に、四半期ごとに実施しています。



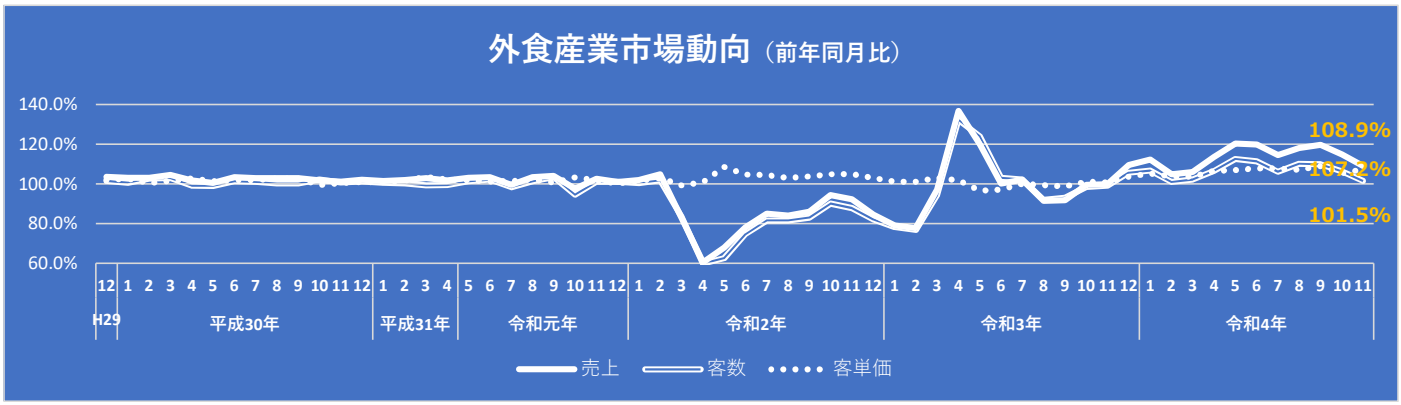
令和 4 年 12 月の日銀短観によると、景気の判断に使われることが多い大企業・製造業の業況判断指数（DI：「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と答えた企業割合を引いたもの）は、7 となり前回 9 月調査から 1 ポイント悪化しました。結果がプラスとなったのは、8 四半期連続です。

金沢支店が発表した北陸 3 県・全産業では、9 月調査から 3 ポイント改善の 4 となり、3 四半期連続で改善しました。産業別では、製造業は、5 ポイント悪化の▲2。非製造業は、10 ポイント改善の 8 となりました。

【１１月の結果】

◆外食産業市場動向（日本フードサービス協会：12 月 26 日発表）《更新》

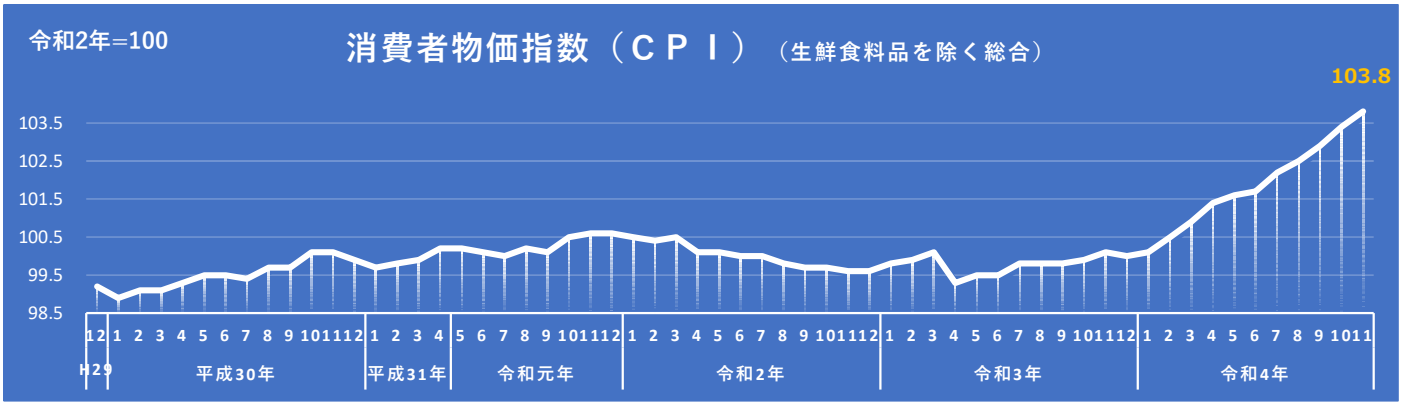
【指標の説明】日本フードサービス協会に加盟する会員企業の新規店も含めた「全店データ」を業界全体及び業態別に集計し、前年同月比を算出しているものです。



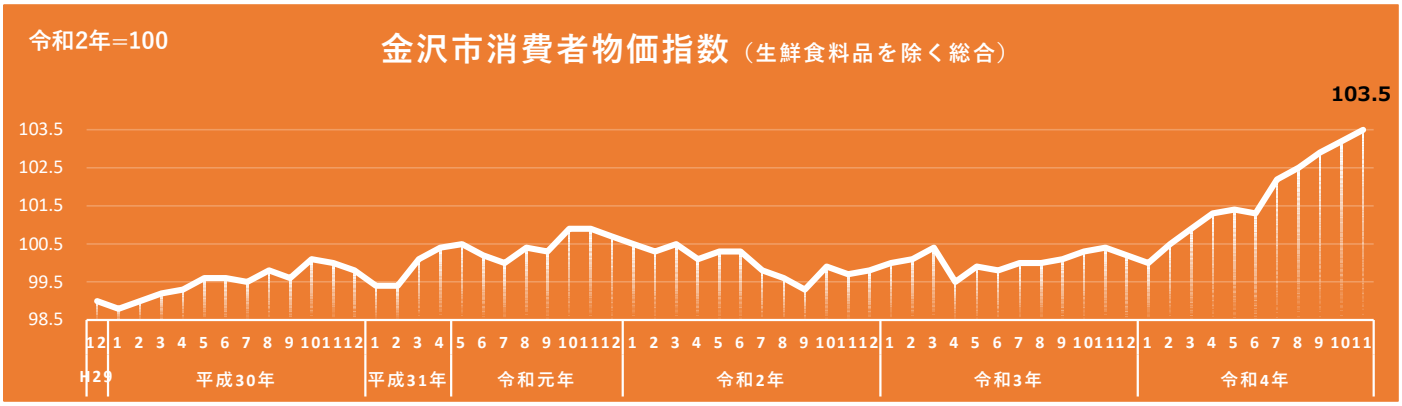
令和 4 年 11 月の外食産業市場動向は、売上が前年同月比 108.9%、客数が 101.5%、客単価が 107.2%でした。コロナ禍前の 3 年前対比では 100.7%になりました。

◆全国消費者物価指数（総務省・石川県：12 月 23 日発表）《更新》

【指標の説明】全国の世帯が購入するモノやサービスを購入するときの価格の変化を表しています。令和 2 年を 100 としています。



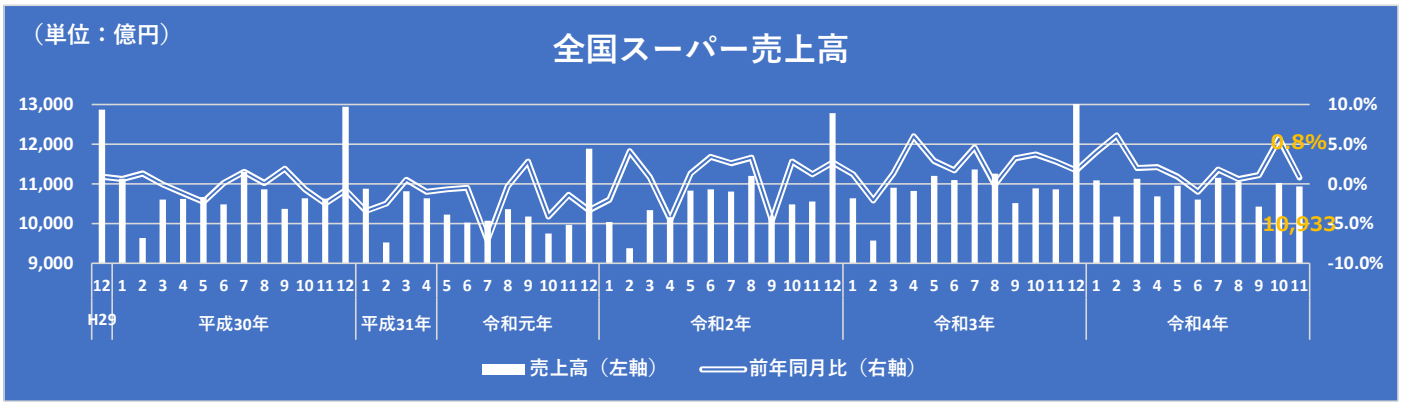
令和 4 年 11 月の全国消費者物価指数（CPI）は、価格変動の大きい生鮮食料品を除く総合（季節調整値）が前年同月比で 3.7%上昇の 103.8 となりました。上昇は 15 か月連続です。



令和 4 年 11 月の金沢市消費者物価指数は、価格変動の大きい生鮮食料品を除く場合が前年同月比で 3.1%上昇の 103.5 となりました。上昇は 17 か月連続です。

◆全国スーパー売上高（日本チェーンストア協会：12 月 21 日発表）《更新》

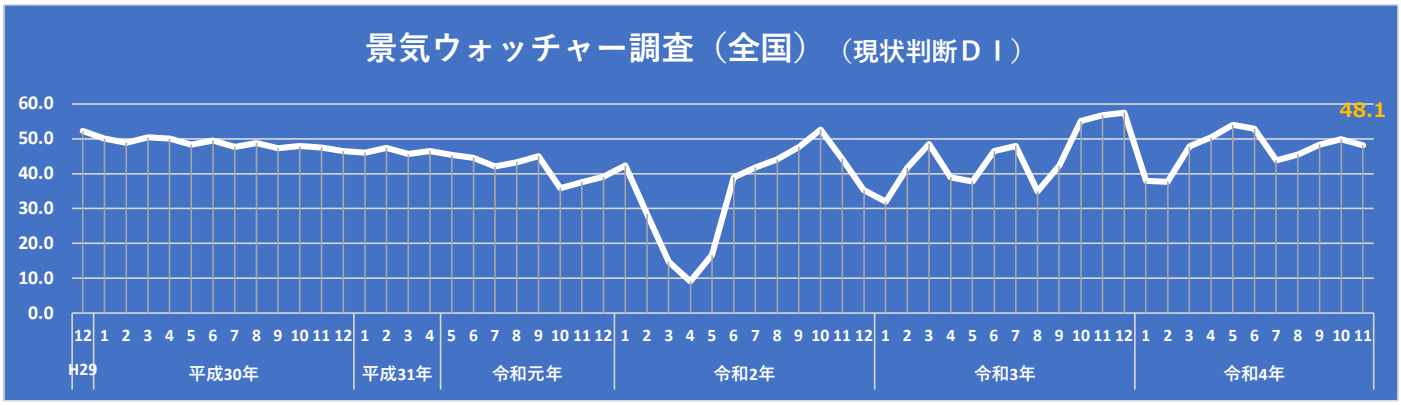
【指標の説明】日本チェーンストア協会に加盟する会員企業の総販売額を集計したものです。



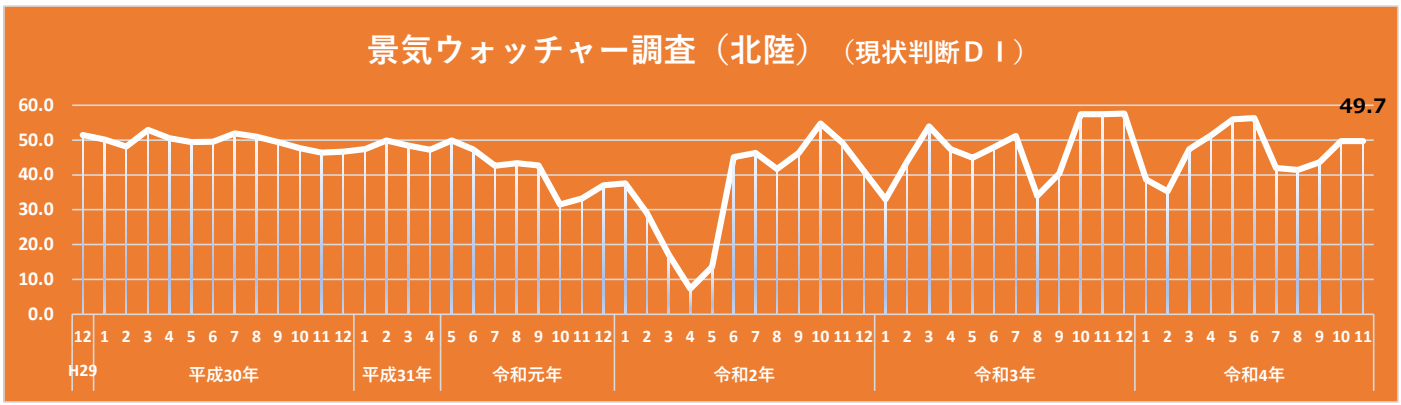
令和 4 年 11 月の全国スーパー売上高は、10,933 億円で、店舗調整後で前年同月比 0.8%増加しました。増加は 5 か月連続です。内訳は、食料品が 1.7%増、衣料品が 4.4%減、住宅関連品は 7.0%増、サービスが 4.9%増、その他が 20.6%減でした。

◆景気ウォッチャー調査（内閣府：12 月 8 日発表）《更新》

【指標の説明】地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場（百貨店・スーパーマーケット・コンビニエンスストアなどの小売店や、タクシー運転手、レジャー業界など景気に敏感な職種）にある人々にインタビューをする調査です。別名「街角景気」とも言われています。



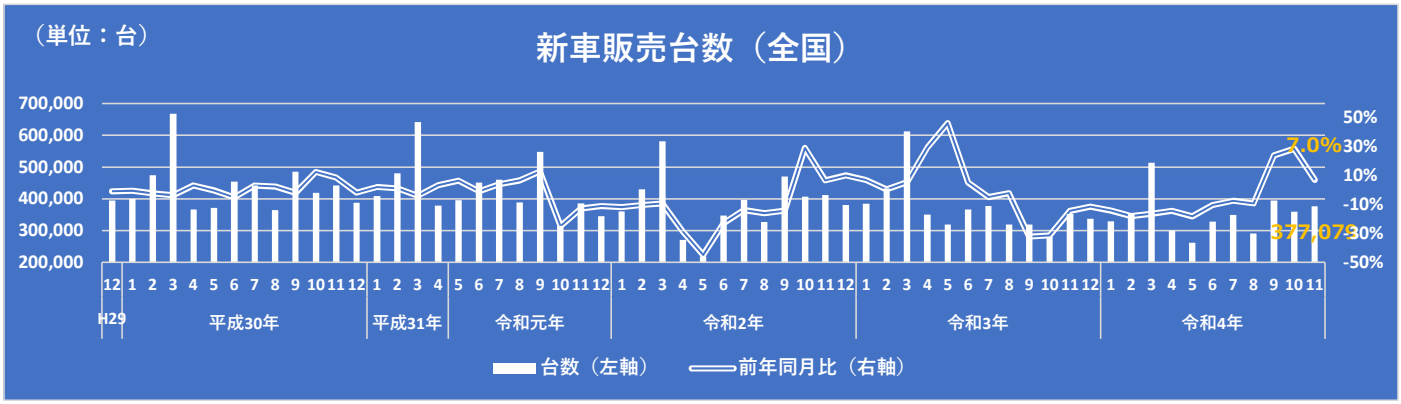
令和 4 年 11 月の現状判断 DI（季節調整値）は、前月差 1.8 ポイント低下の 48.1 となり、4 か月ぶりに低下しました。項目別では、家計動向関連 DI は 3.1 ポイント低下の 48.3、企業動向関連 DI は、1.2 ポイント上昇の 47.3、雇用関連 DI は、0.5 ポイント上昇の 48.3 でした。



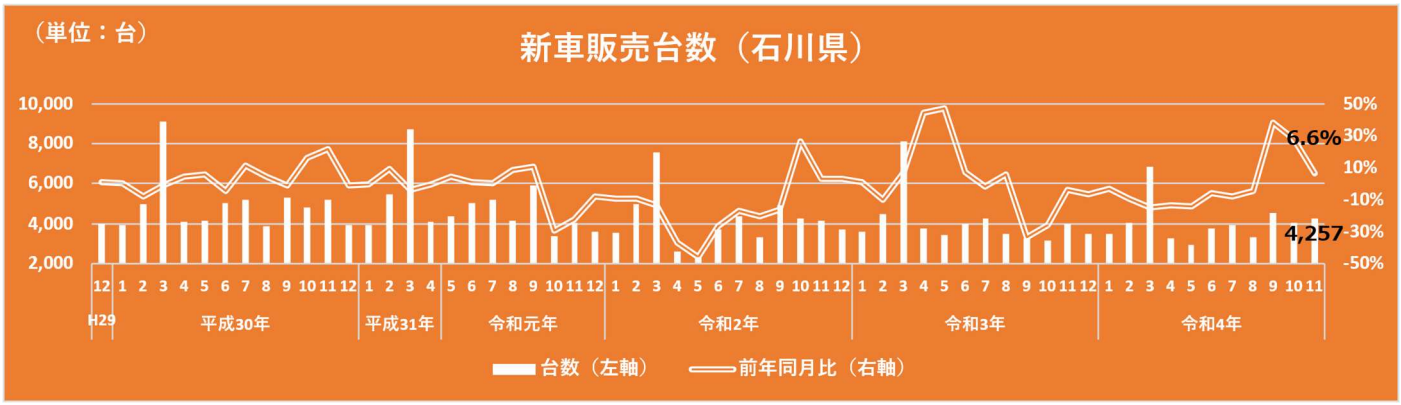
北陸の令和 4 年 11 月の現状に対する判断 DI は、前月と変わらず 49.7 となりました。

◆新車販売台数（日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会、石川県自動車販売店協会:12 月 1 日）《更新》

【指標の説明】自動車は耐久消費材の代表格であり、個人（消費者）の購買意欲や政策によって左右されやすく、また自動車産業は裾野が非常に幅広いため、その動向が注目されています。



令和 4 年 11 月の国内新車販売台数（軽自動車を含む）は、前年同月比 7.0%増の 377,079 台でした。（3 年前との比較は、2.3%減）3 か月連続で前年同月比を上回りました。内訳は、登録車が 1.0%増の 221,541 台、軽自動車が 16.8%増の 155,538 台でした。

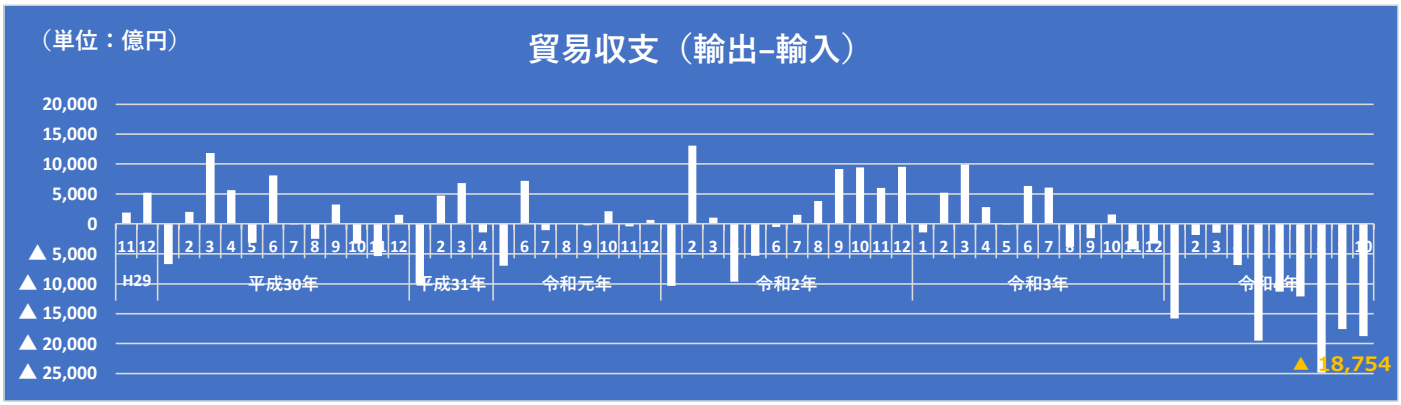


石川県の令和 4 年 11 月の新車販売台数（軽自動車を含む）は、前年同月比 6.6%増の 4,257 台でした。（3 年前との比較は、5.9%増）3 か月連続で前年同月を上回りました。登録車は、2.8%減の 2,472 台。軽自動車は、23.3%増の 1,785 台でした。

【１０月の結果】

◆貿易収支（輸出－輸入）（財務省：12 月 8 日発表）《更新》

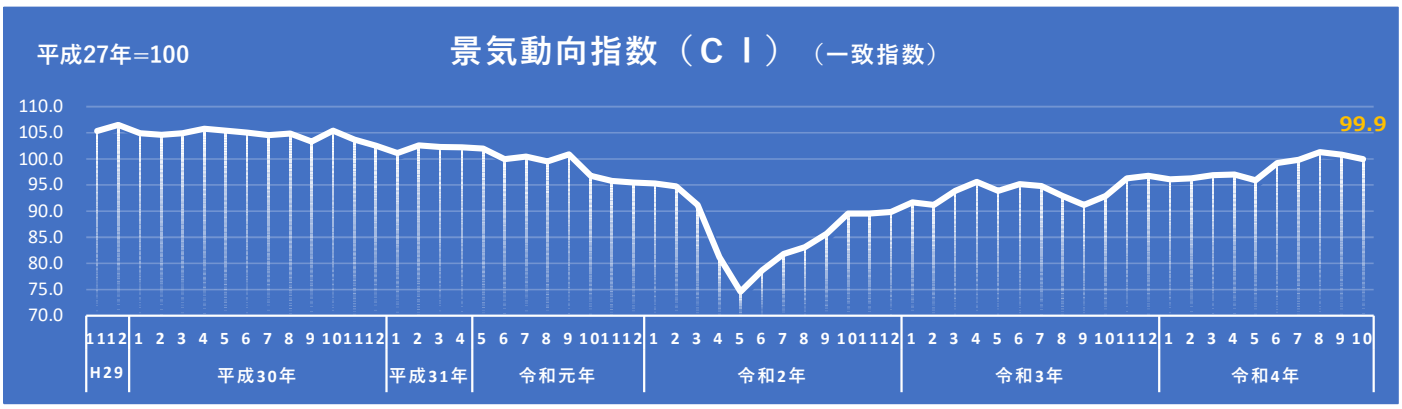
【指標の説明】貿易収支は一次産品などの原材料、製品などの輸出入を示しますが、国全体として海外にモノを売って経済を成り立たせているのか、それとも売るよりも買う量の方が多いのか等を示しています。



令和 4 年 10 月の貿易収支（速報）は 1 兆 8,754 億円の赤字（前年同月比マイナス 2 兆 0,344 億円）となりました。赤字は 12 か月連続。輸出は 26.9%増の 8 兆 9,892 億円、輸入は 56.9%増の 10 兆 8,646 億円でした。

◆景気動向指数（ＣＩ）一致指数（内閣府：12 月 7 日）《更新》

【指標の説明】多数の経済指標（一致指数は、「生産指数」、「所定外労働時間指数」、「商業販売額」、「営業利益」など 9 つの経済指標）の変化方向から景気局面を把握している指数。景気の現状を示す「一致指数」の他、「先行指数」、「遅行指数」があります。

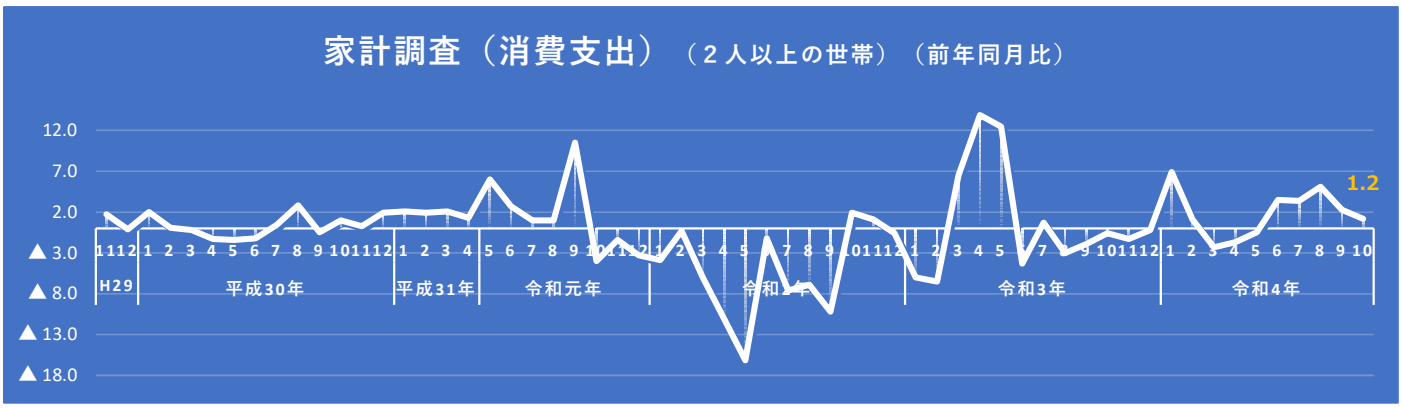


令和 4 年 10 月の景気動向指数（平成 27 年=100）「一致指数」速報値は、前月と比較して 0.9 ポイント低下の

99.9 となり、2 か月連続の低下となりました。内閣府は、基調判断を「改善を示している」に据え置きました。

◆家計調査（総務省：12 月 6 日発表）《更新》

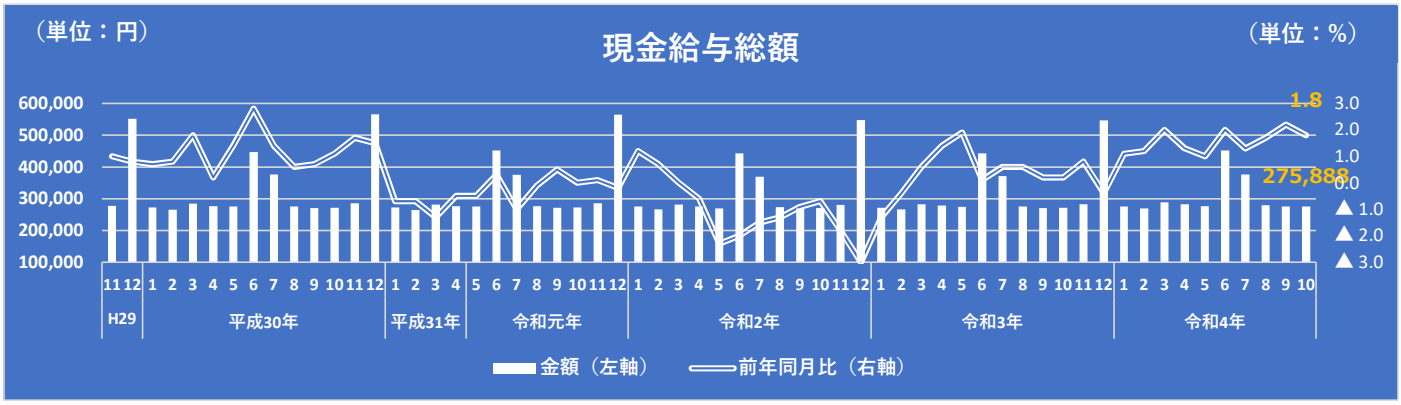
【指標の説明】GDP（国内総生産）の約 6 割を占める消費について、家計が消費を増やしているのか、減らしているのかが分かります。家計が支出を増やせば、景気が上向きます。



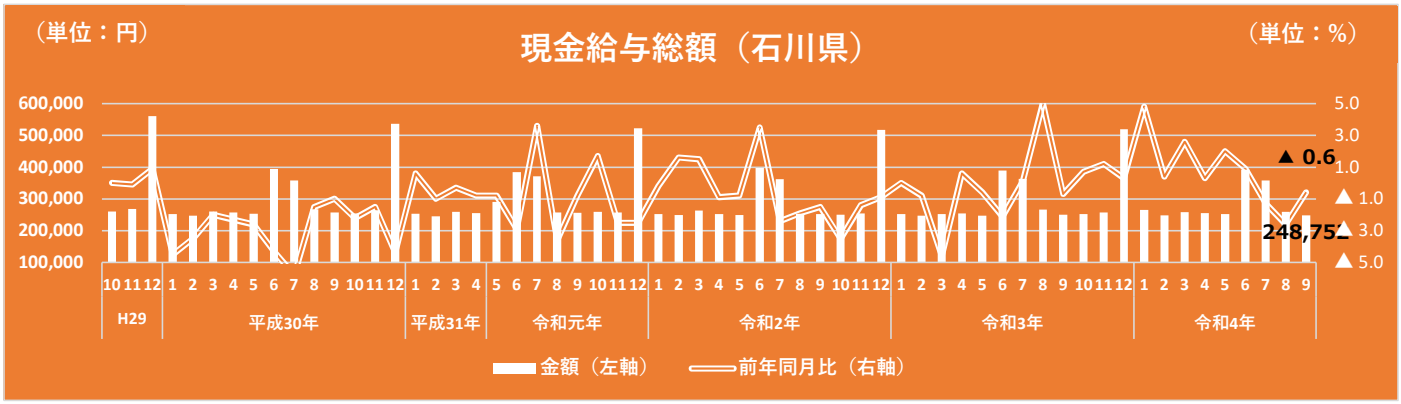
令和 4 年 10 月の 1 世帯（2 人以上）当たりの消費支出は、298,006 円となり、物価変動の影響を除いた実質（変動調整値）で前年同月比 1.2%増となりました。大きく増加したのは被服及び履物（14.9%）、教養娯楽（8.0%）、住居（6.0%）でした。プラスは 5 か月連続です。

◆現金給与総額（厚生労働省：12 月 6 日発表、石川県：10 月 31 日発表）《更新》

【指標の説明】現金給与額とは、所得税、社会保険料、組合費、購買代金等を差し引く以前の総額のこと。賞与なども含まれます。給与額が上がることで景気が上向きと判断されます。



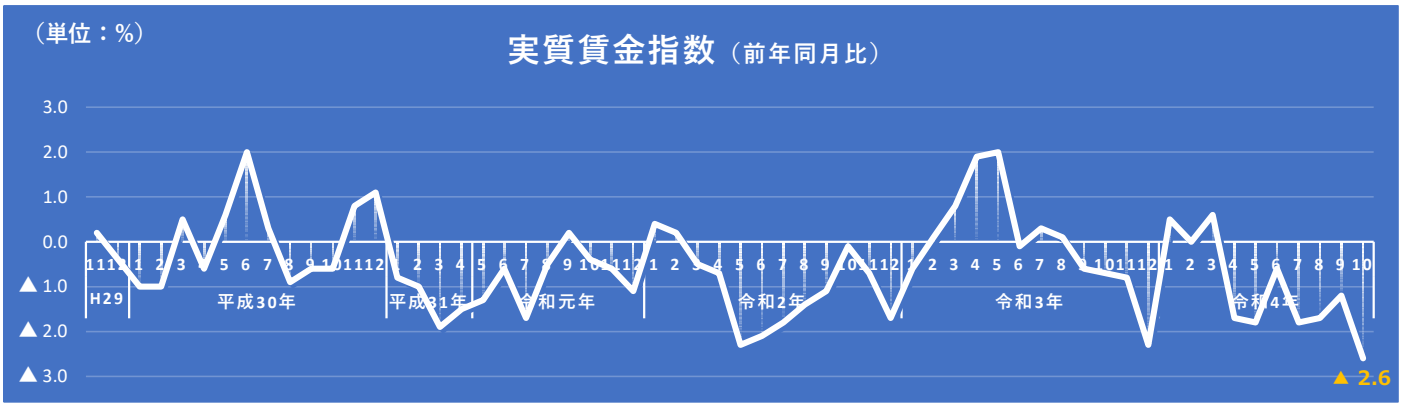
令和 4 年 10 月の基本給や残業代などを合計した 1 人当たりの現金給与総額（名目賃金、速報、従業員 5 人以上）は、前年同月比 1.8%増加の 275,888 円となりました。増加は 10 か月連続。



石川県の令和 4 年 9 月の現金給与総額（従業員 5 人以上）の前年同月比は、0.6%減の 248,752 円となりました。減少は 3 か月連続です。

◆実質賃金指数（厚生労働省：12 月 6 日発表）《更新》

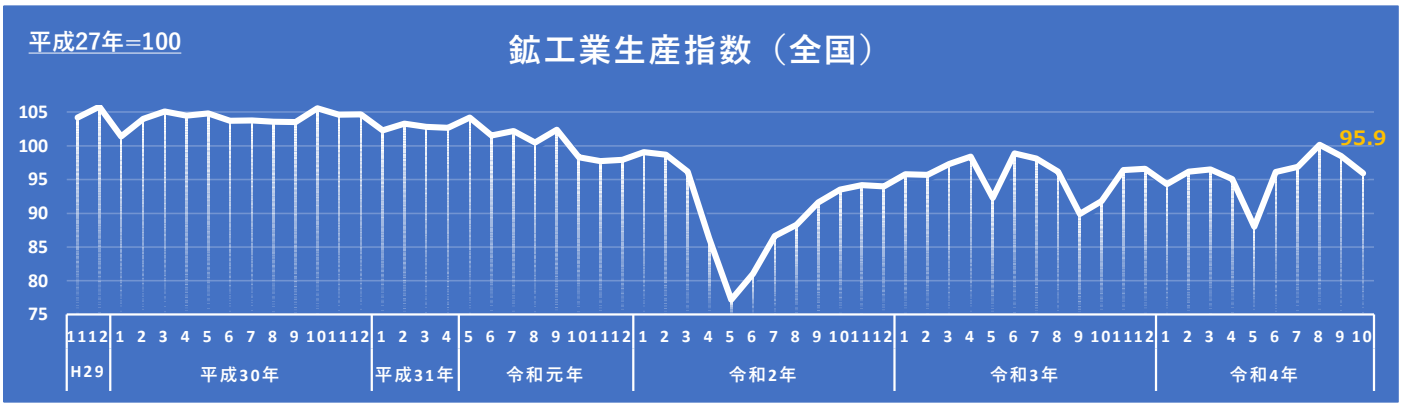
【指標の説明】実質賃金指数は、現金給与総額を消費者物価指数で除したもので、物価変動の影響を除いた賃金の動きを示すものです。



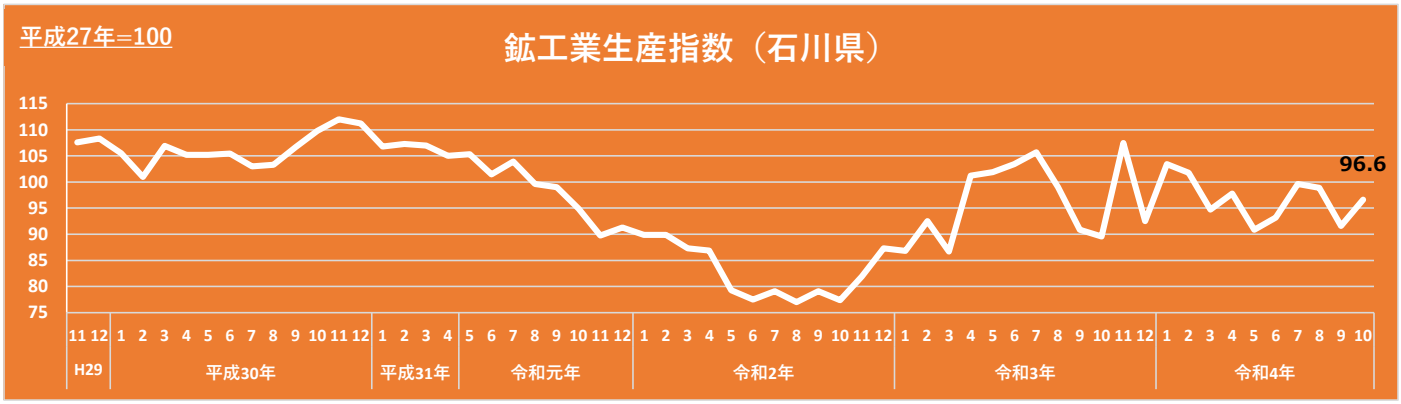
令和 4 年 10 月の実質賃金指数（速報）の前年同月比は、現金給与総額が 1.8%上昇したものの、消費者物価指数が 4.4%上昇したため 2.6%減となりました。低下は 7 か月連続です。

◆鉱工業生産指数（経済産業省：11 月 30 日発表・石川県：12 月 26 日発表）《更新》

【指標の説明】製造業（メーカー）がどれだけの製品を生産したかを、量的な物差しで示すものです。景気のいいときには消費が盛んになるため、これを見越したうえで企業は製品の生産量を増やすのが普通です。生産量の変動は景気の動きを端的に示すバロメーターとなっています。



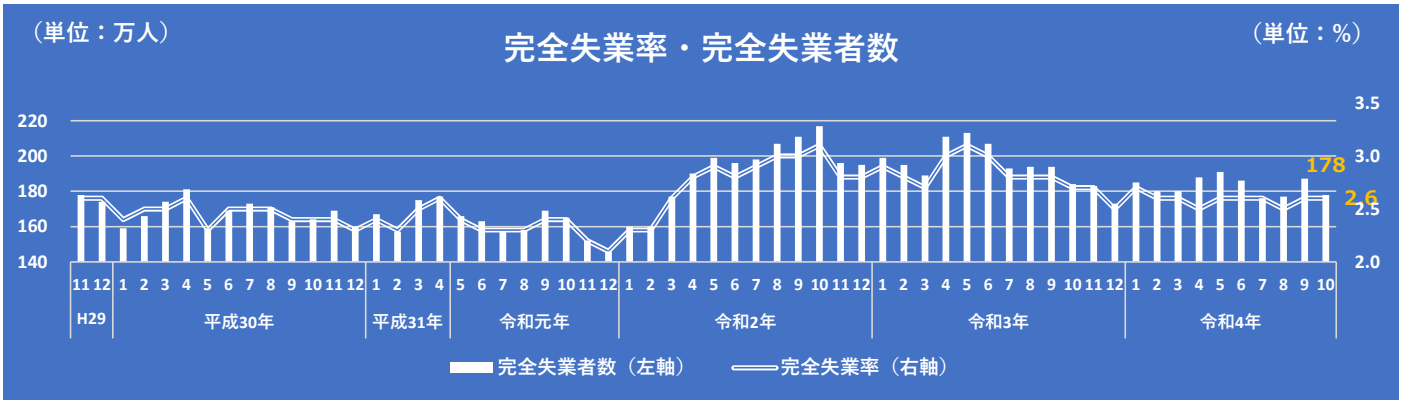
令和 4 年 10 月の鉱工業生産指数（国・速報）は、95.9 となり、前月比で 2.6%の低下となりました。低下は 2 か月連続です。基調判断は「生産は緩やかな持ち直しの動き」から「生産は緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる」に下方修正されました。



石川県の令和 4 年 10 月の鉱工業生産指数（県・季節調整済）は、96.6 となり、前月比 5.5%上昇しました。上昇は 3 か月ぶりです。

◆完全失業率・完全失業者数（厚生労働省：11 月 29 日発表）《更新》

【指標の説明】労働力人口の中で、就職が可能で、就職活動をしているにもかかわらず、就職できていない人の割合です。指標は、企業がどの程度の人員を雇用するゆとりがあるかを示しています。企業景気の行方を見るうえでもとても重要なデータです。



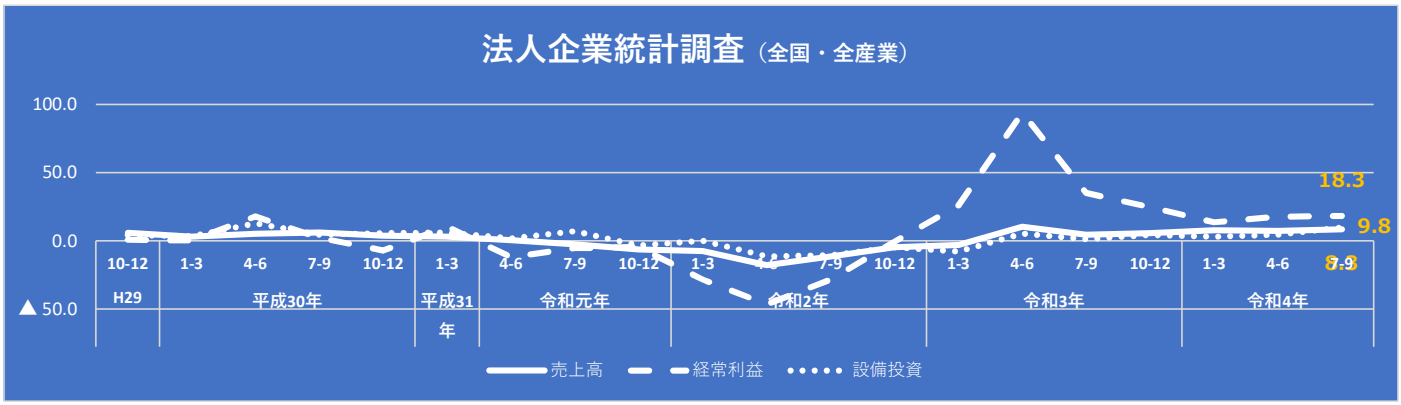
令和 4 年 10 月の完全失業率は、前月と変わらず 2.6%でした。

完全失業者数（原数値）は、前年同月比 6 万人減少の 178 万人（3 年前との比較は、13 万人増）でした。16 か月連続で減少しました。

【７～９月の結果】

◆法人企業統計調査（財務省：12 月 1 日発表）《更新》

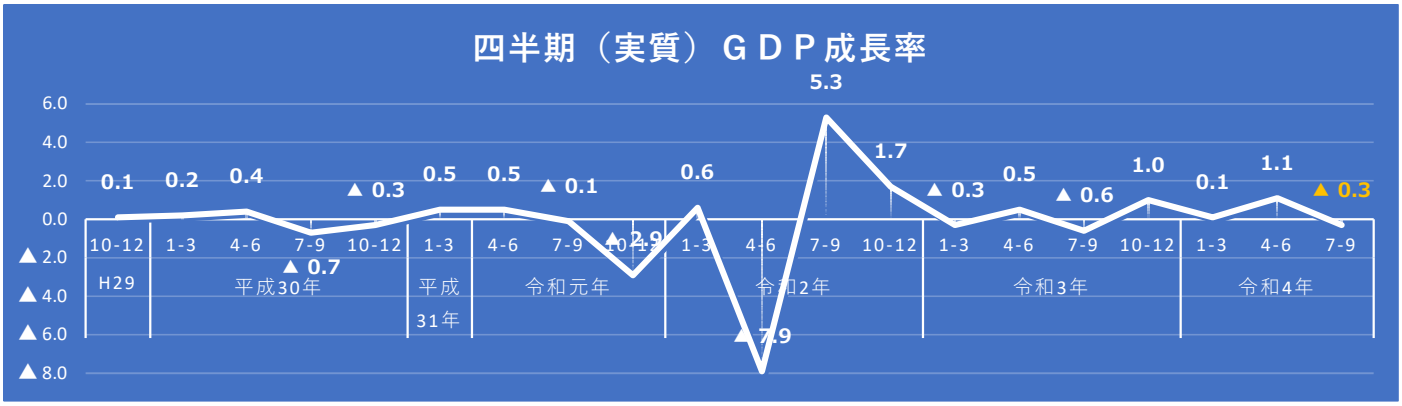
【指標の説明】法人企業統計調査は、わが国における営利法人等の企業活動の実態を把握するために実施されています。（売上高、経常利益、設備投資を記載）



令和 4 年 7～9 月期の法人企業統計（金融・保険業を除く全産業：確報）は、売上高が前年同期比 8.3%増（350 兆 3,671 億円、6 四半期連続の増加）、経常利益が同 18.3%増（19 兆 8,098 億円、6 四半期連続の増加）、設備投資が同 9.8%増（12 兆 0,017 億円、6 四半期連続の増加）となりました。

◆四半期（実質）ＧＤＰ成長率（内閣府：11 月 15 日発表）

【指標の説明】国内で一定期間につくられたモノ・サービスの付加価値の合計額。経済規模、景気動向を判断する最も重要な資料とされ、増減率が「経済成長率」と呼ばれています。



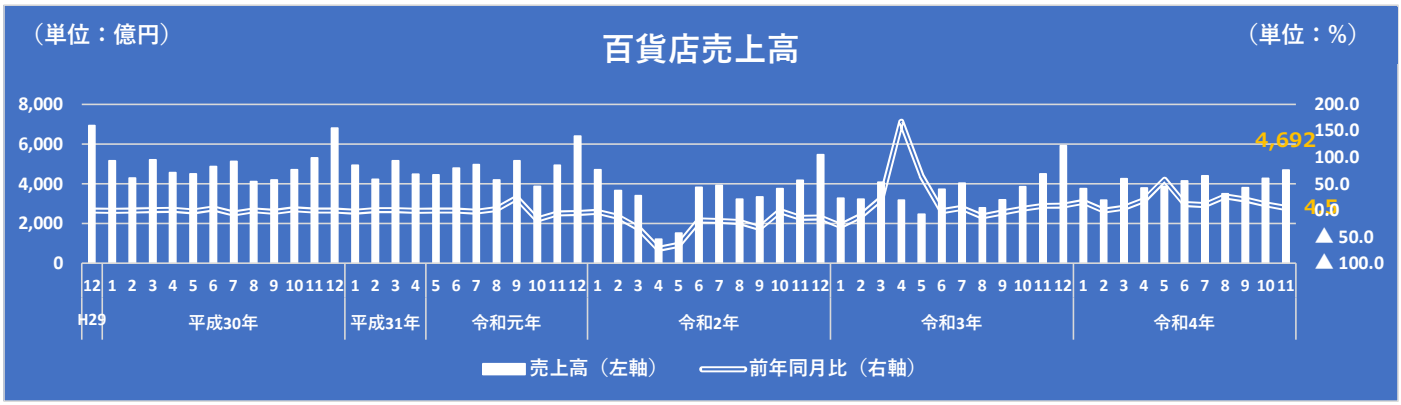
令和 4 年 7～9 月期の国内総生産（GDP、季節調整値）1 次速報値は、物価変動を除く実質で前期比 0.3%減（このペースが 1 年間継続したと仮定した年率換算は、1.2%減）となりました。減少は 4 四半期ぶりです。

◎景気の先行き

【１１月の結果】

◆百貨店売上高（日本百貨店協会：12 月 23 日発表）《更新》

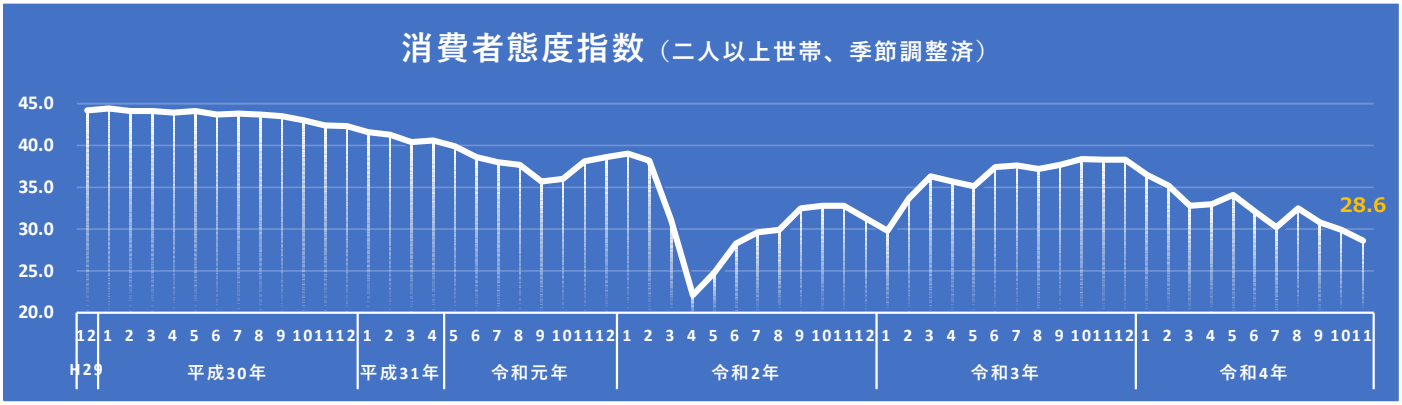
【指標の説明】一般的に百貨店は、高額商品である宝飾品や貴金属等を多く取り扱っています。高額商品を購入するのは、生活に余裕が感じられた時であり、生活が苦しくなってくると購入する人は極端に減少します。そのため、景気に先駆けて敏感に反応する百貨店売上高は、景気の先行きを判断する指標として利用されています。



令和 4 年 11 月の百貨店売上高は、4,692 億円で、前年同期比 4.5%増でした。9 か月連続で前年同月を上回りました。（3 年前との比較は、3.0%減）

◆消費者態度指数（内閣府：12 月 1 日発表）《更新》

【指標の説明】消費者の今後の暮らし向きの見通しなどを把握する指標。50 が「良い」、「悪い」の目安となっています。

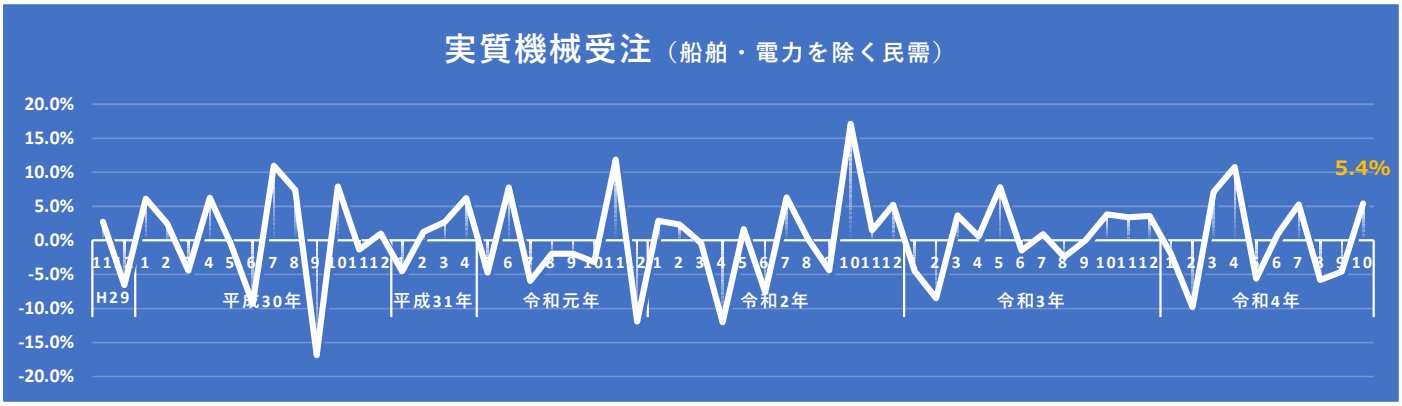


令和４年 11 月の消費者態度指数（2 人以上の世帯、季節調整値）は、前月比 1.3 ポイント低下の 28.6 となりました。消費者態度指数を構成する 4 項目のうち、「暮らし向き」が 0.8 ポイント低下し 26.5、「収入の増え方」が 1.1 ポイント低下し 34.2、「雇用環境」が 1.9 ポイント低下し 32.4、「耐久消費財の買い時判断」が 1.1 ポイント低下し 21.4 となりました。低下は 3 か月連続です。消費者マインドの基調判断は、「弱い動きがみられる」から「弱まっている」に下方修正されました。

【１０月の結果】

◆実質機械受注（内閣府：12 月 14 日発表）《更新》

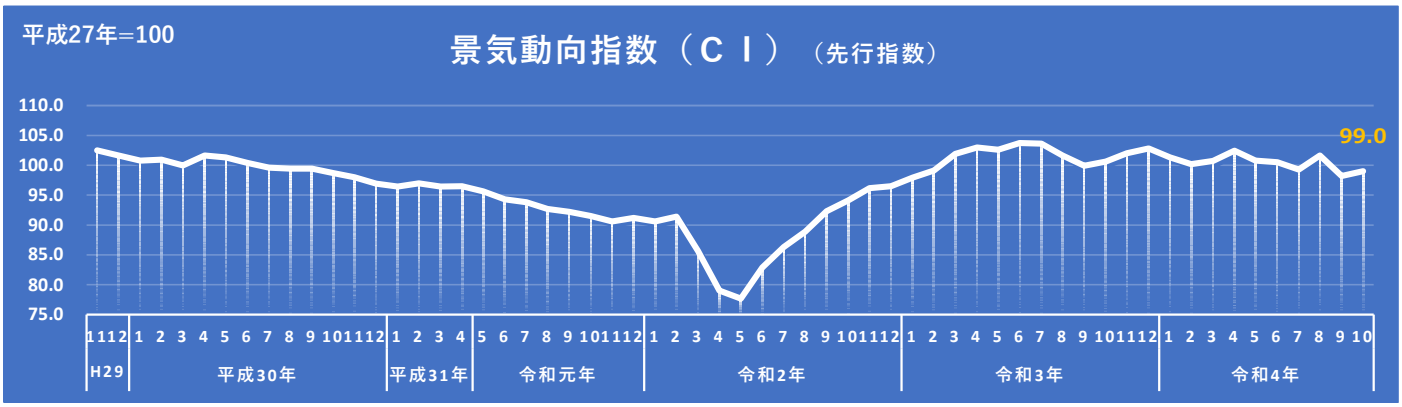
【指標の説明】機械メーカーが他の企業等から機械の購入の注文をどの程度受けたか（受注）を示します。この機械受注統計は、企業の設備投資の動きをとてもよく示すデータで、「企業の設備投資の動きを半年程度先取りする」という意味でとても重視される指標です。



令和４年 10 月の機械受注統計（季節調整値）は、民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の受注額は、前月比 5.4%増の 9,147 億円となり、3 か月ぶりのプラスとなりました。基調判断は、「持ち直しの動きに足踏みがみられる」に据え置かれました。

◆景気動向指数（ＣＩ）先行指数（内閣府：12 月 7 日）《更新》

【指標の説明】多数の経済指標（先行指数は、「新規求人数」、「実質機械受注」、「消費者態度指数」、「東証株価指数」など 11 つの経済指標）の変化方向から景気局面を把握している指数。先行指数は、一般的に、一致指数に数か月先行することから、景気の動きを予測する目的で利用します。

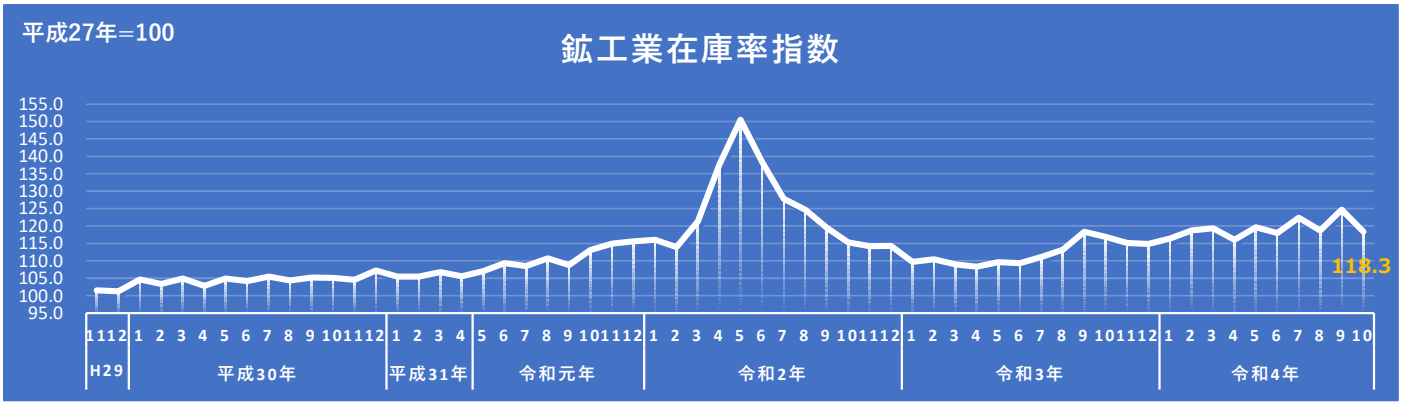


令和４年 10 月の景気動向指数（平成 27 年=100）「先行指数」速報値は、前月比 0.8 ポイント上昇の 99.0 でした。上昇は 2 か月ぶりです。

◆鉱工業在庫率指数（経済産業省：11 月 30 日発表）《更新》

【指標の説明】出資量に対する在庫の割合。企業は、在庫を持ちたくないため、在庫が増えれば、生産を抑制し、調整されれば生産を増やします。この指数が減少すれば、時間差で「鉱工業生産指数」が増加に転じます。その

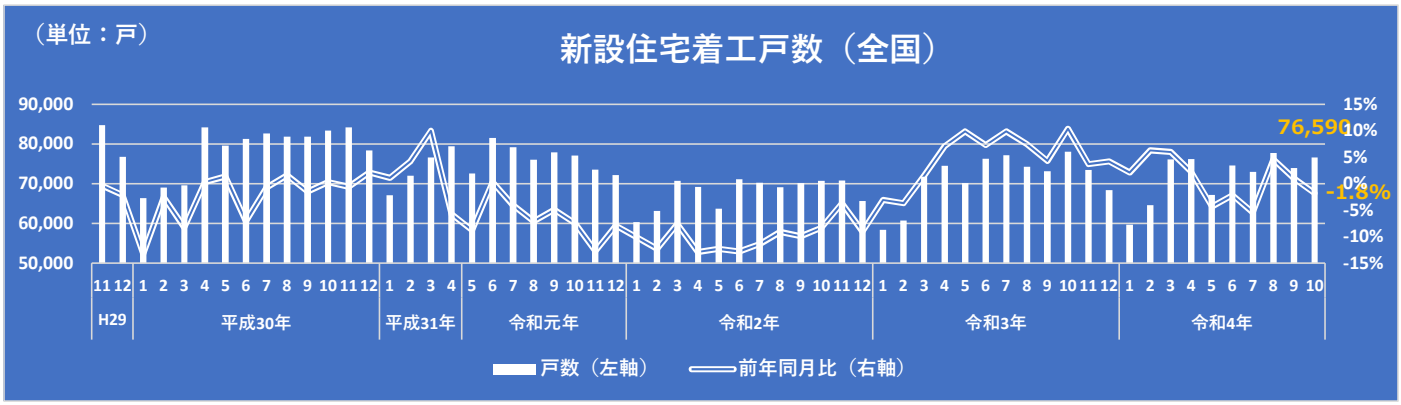
際、企業は設備投資を増やし、雇用を拡大するため景気は上向くとされます。



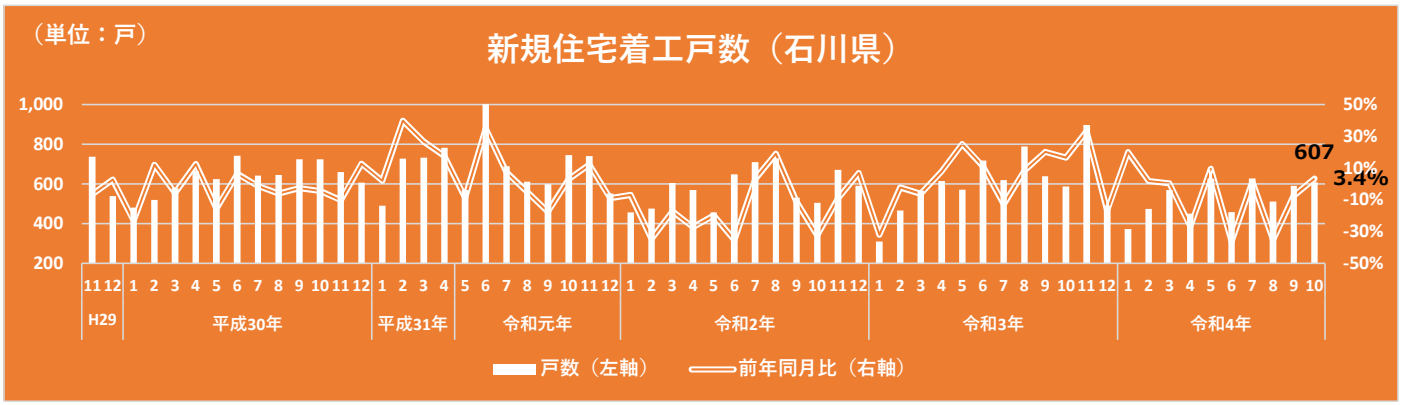
令和 4 年 10 月の鉱工業在庫率指数（国・速報）は、118.3 となり、前月と比べ 5.1%低下しました。低下は、2 か月ぶりです。

◆新設住宅着工戸数（国土交通省、石川県：11 月 30 日発表）《更新》

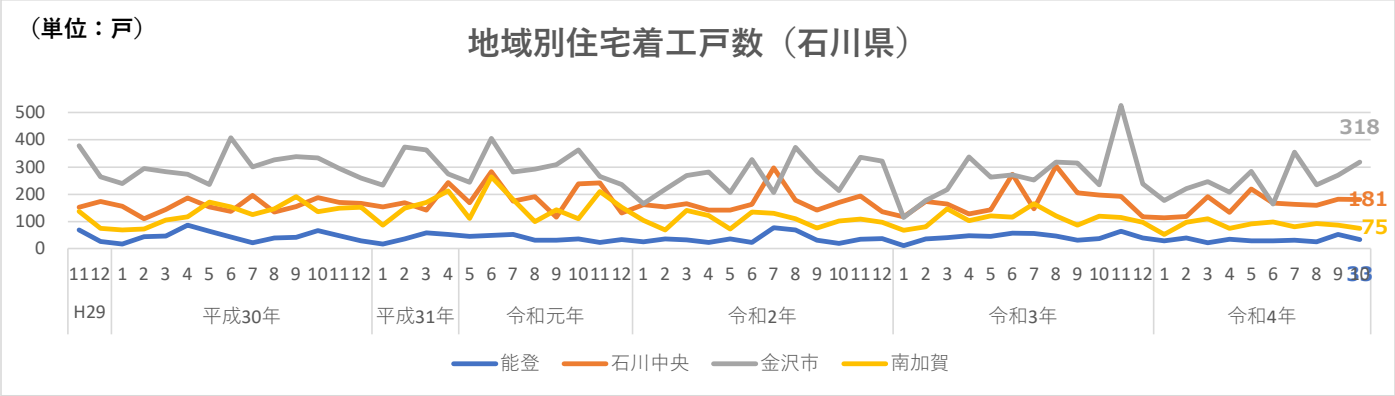
【指標の説明】着工戸数が増えれば住宅投資（部材、インテリア、家電など）の生産が拡大し、大工などの雇用も拡大し、景気にはプラスに働きます。経済波及効果が大きい指標です。



全国の令和 4 年 10 月の新設住宅着工件数は、前年同月比 1.8%減の 76,590 戸でした。(3 年前との比較は、0.7%減）3 か月ぶりで前年同月比を下回りました。



石川県の令和 4 年 10 月の新規住宅着工数は、前年同月比 3.4%増の 607 戸でした。(3 年前との比較は、18.5%減）3 か月ぶりで前年を下回りました。



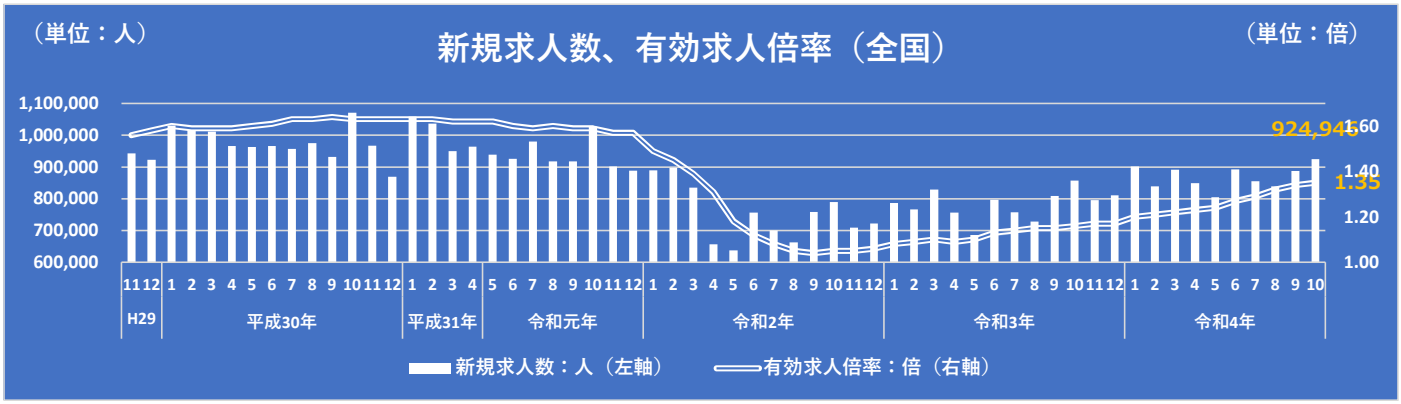
県内の 607 戸を地域別でみると南加賀（小松市、加賀市、能美市、川北町）は、75 戸（前年同月比 37.5%減）、金沢市は、318 戸（前年同月比 35.9%増）、石川中央（かほく市、白山市、野々市市、津幡町、内灘町）は、181 戸（前年同月比 7.7%減）、能登（七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町）は 33 戸（前年同月比 10.8%減）でした。

◆新規求人数（厚生労働省・石川労働局・ハローワーク七尾：11 月 29 日発表）《更新》

【指標の説明】公共職業安定所（ハローワーク）が受け付けた新規の求人数です。新規の求人数が伸びていれば、企業が先行きに明るい見通しを持っており、逆ならば暗い見通しを持っています。

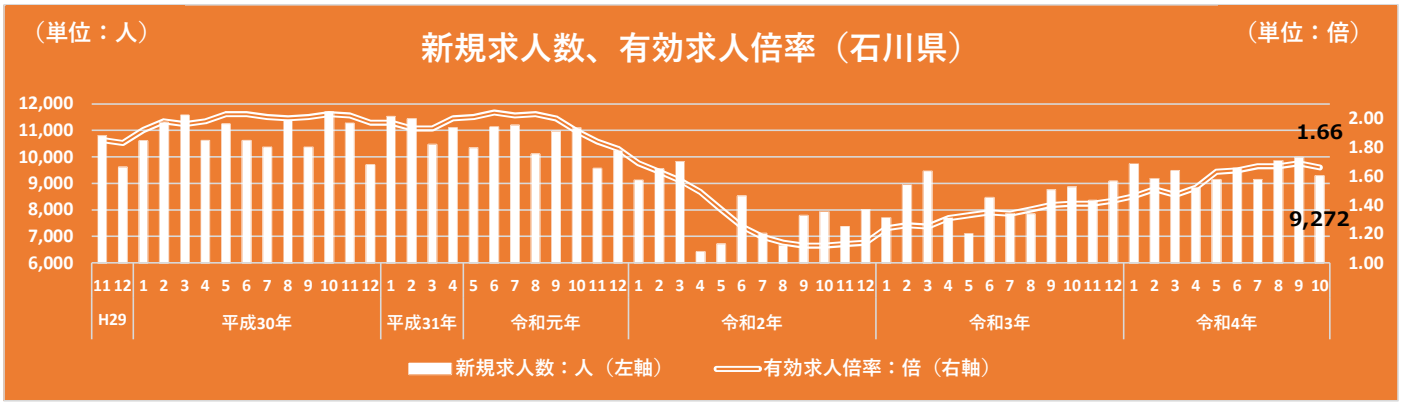
◆有効求人倍率（厚生労働省・石川労働局・ハローワーク七尾：11 月 29 日発表）《更新》

【指標の説明】有効求人倍率とは、有効求職者数に対する有効求人数の割合で、雇用動向を示す重要指標のひとつです。有効求人数を有効求職者数で割って算出し、倍率が 1 を上回れば人を探している企業が多く、下回れば仕事を探している人が多いことを示します。



全国の令和 4 年 10 月の新規求人（原数値）は、924,946 人で前年同月比 7.9%増となりました。（3 年前との比較は、10.0%減）これを産業別にみると、宿泊業、飲食サービス業（29.3%増）、卸売業、小売業（11.7%増）、生活関連サービス業、娯楽業（11.3%増）などで増加となり、教育、学習支援業（1.9%減）、建設業（0.7%減）で減少となりました。

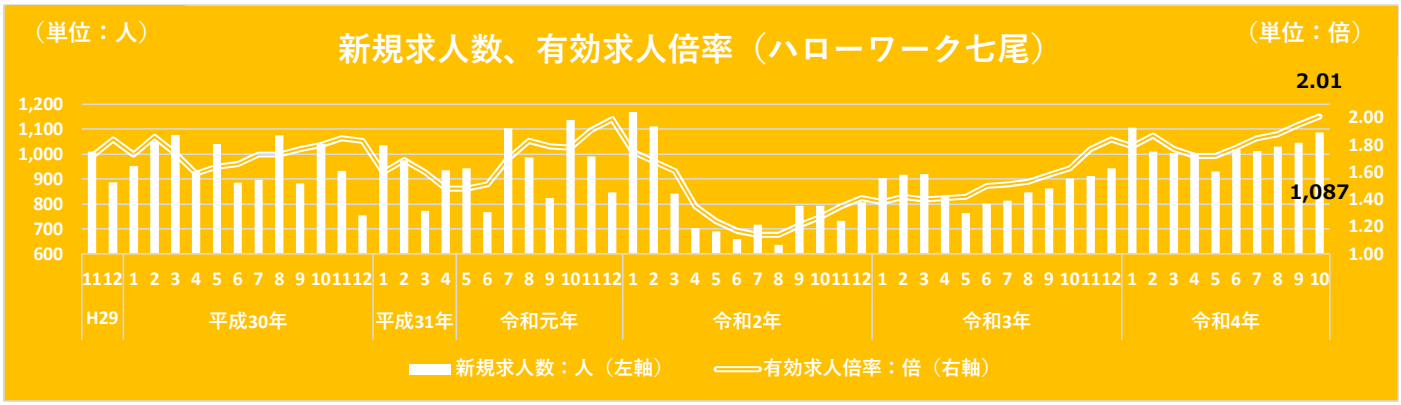
有効求人倍率については、前月比 0.01 ポイント上昇の 1.35 倍となりました。



石川県の令和 4 年 10 月の新規求人（原数値）は、9,272 人で前年同月比 4.7%増（3 年前との比較は 9.0%減）となりました。16 か月連続の増加となりました。

有効求人倍率については、前月比 0.03 ポイント低下の 1.66 倍（全国 4 位）となりました。

石川労働局は、基調判断を「県内の雇用情勢は、注意を要する状態にあるものの、持ち直している」に据え置きました。

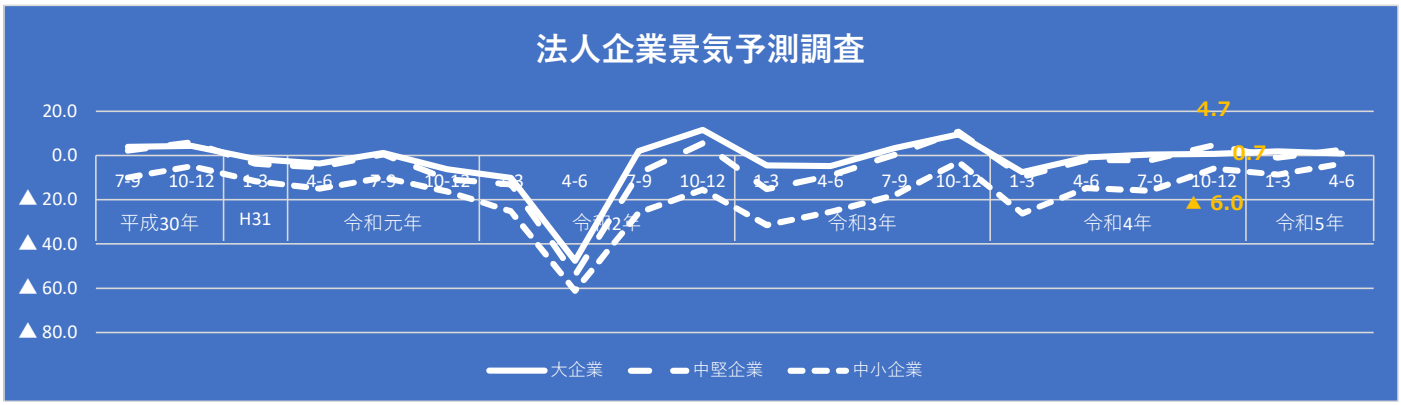


ハローワーク七尾管内の令和 4 年 10 月の新規求人は、1,087 人で前年同月比 20.4%増となりました。(3 年前との比較は 4.4%減）有効求人倍率については、前月比 0.06 ポイント上昇の 2.01 倍でした。

【１０～１２月の結果】

◆法人企業景気予測調査（内閣府・財務省：12 月 12 日発表）《更新》

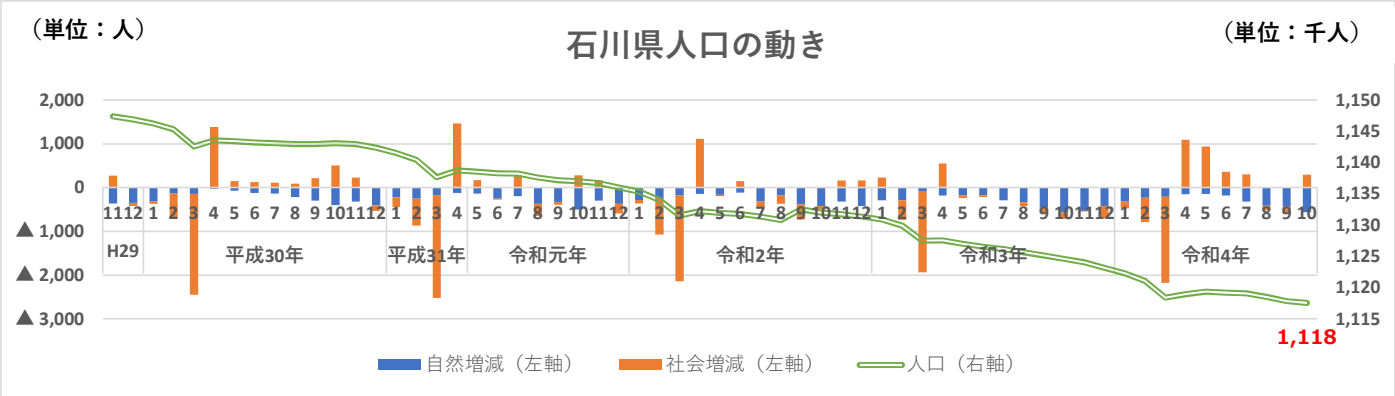
【指標の説明】内閣府と財務省が共同で四半期ごとに実施する調査。「判断調査」では、企業経営者に自社の景況感や売上高、需要等に関する推移と見通しを尋ねています。



令和 4 年 10～12 月期の法人企業景気予測調査は、大企業が 0.7（前回調査 6.4）、中堅企業が 4.7（前回調査 4.9）、中小企業が△6.0（前回調査△5.9）でした。大企業の先行きは、1～3 月期が 1.8、4～6 月期が 0.8 でした。中堅企業の先行きは、1～3 月期が△1.0、4～6 月期が 2.6 でした。中小企業の先行きは、1～3 月期が△8.7、4～6 月期が△3.7 でした。

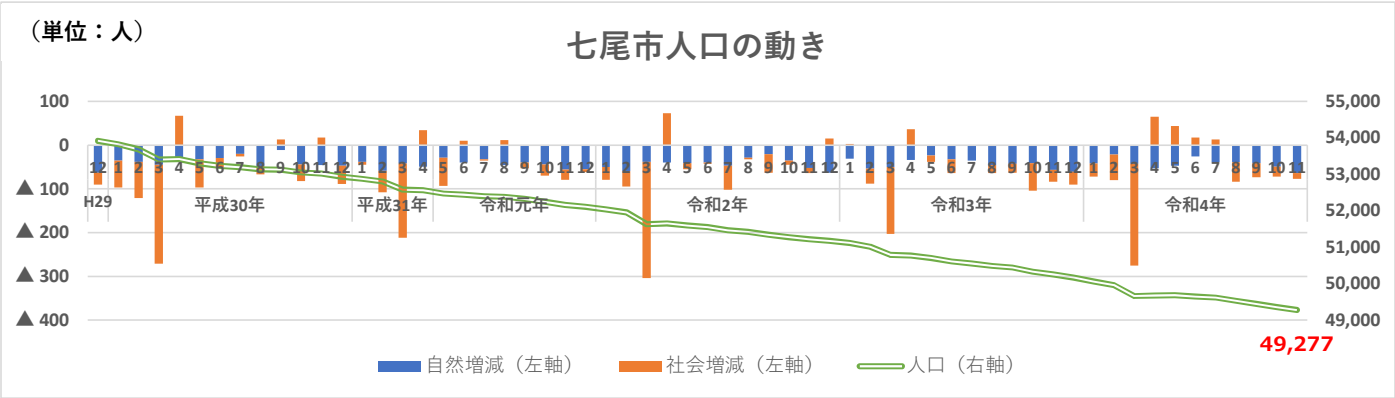
◎人口

◆石川県の人口（石川県：12 月 1 日発表）《更新》



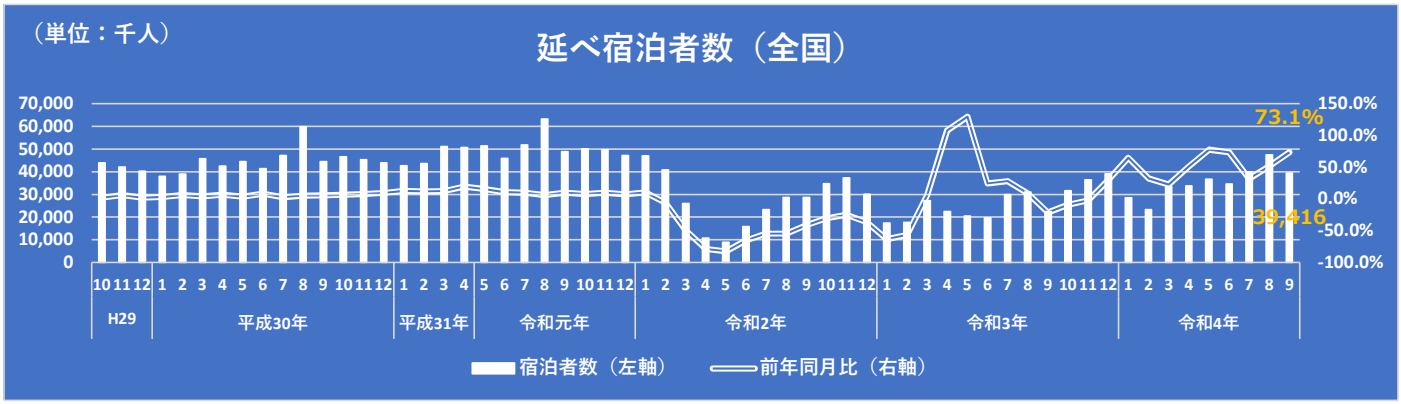
令和 4 年 11 月 1 日現在の石川県の人口は、1,117,540 人で、前月より 287 人減少しました。減少は 5 か月連続です。要因は、自然増減が、579 人減（出生 625 人−死亡 1,204 人）、社会増減が、292 人増（転入 2,909 人−転出 2,617 人）。前年同月と比較すると 7,049 人減少しています。

◆七尾市の人口（七尾市：12 月 6 日発表）《更新》

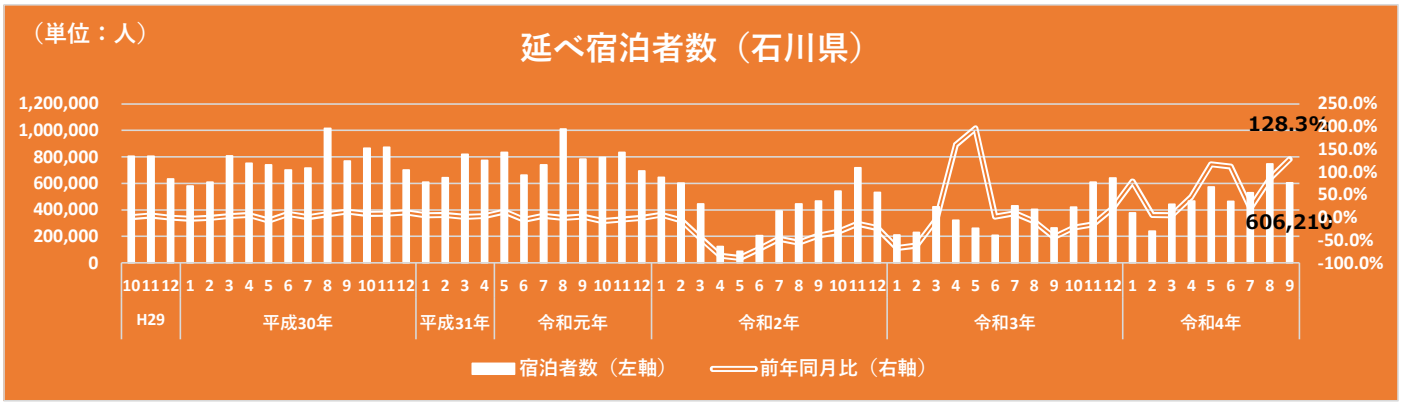


令和 4 年 11 月 30 日現在の七尾市の人口（住民基本台帳人口）は、49,277 人で、前月より 81 人減少しました。要因は、自然増減が、68 人減（出生 8 人−死亡 76 人）、社会増減が、13 人減（転入 74 人−転出 87 人＋その他 0 人）でした。6 か月連続の減少。前年同月と比較すると 976 人減少しています。

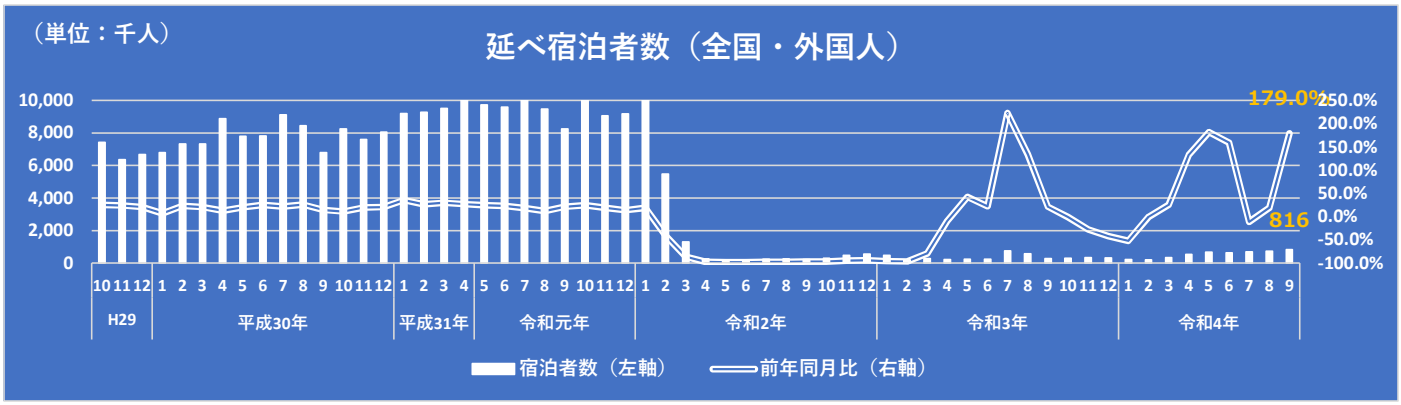
◆延べ宿泊者数、入り込み客数（観光庁：11 月 30 日、能登島旅館民宿飲食店組合・能登鹿北商工会：10 月 31 日発表）《更新》



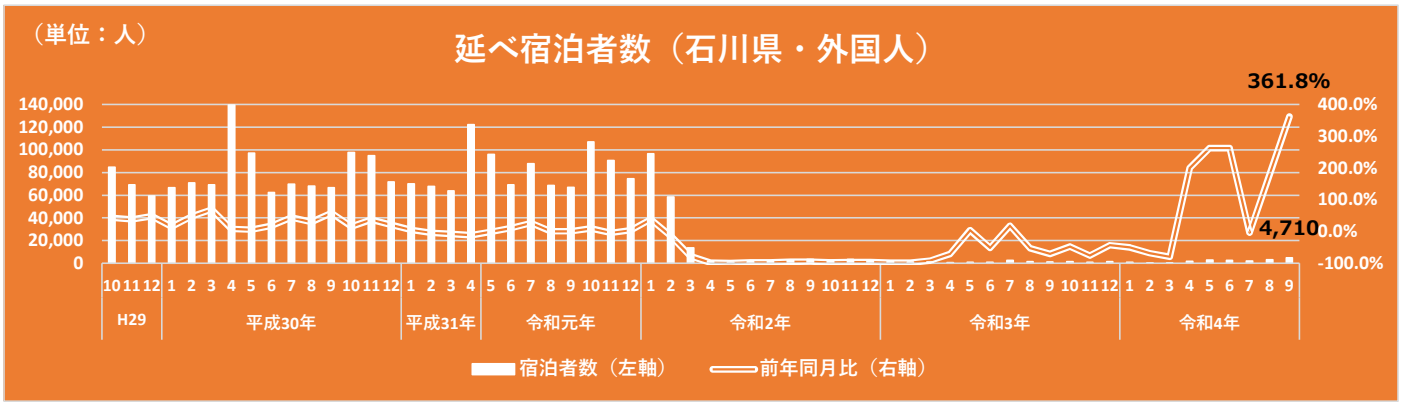
令和 4 年 9 月の全国の延べ宿泊者数（第 2 次速報）は、39,416 千人泊で、前年同月比 73.1%増（3 年前との比較 19.2%減）となりました。



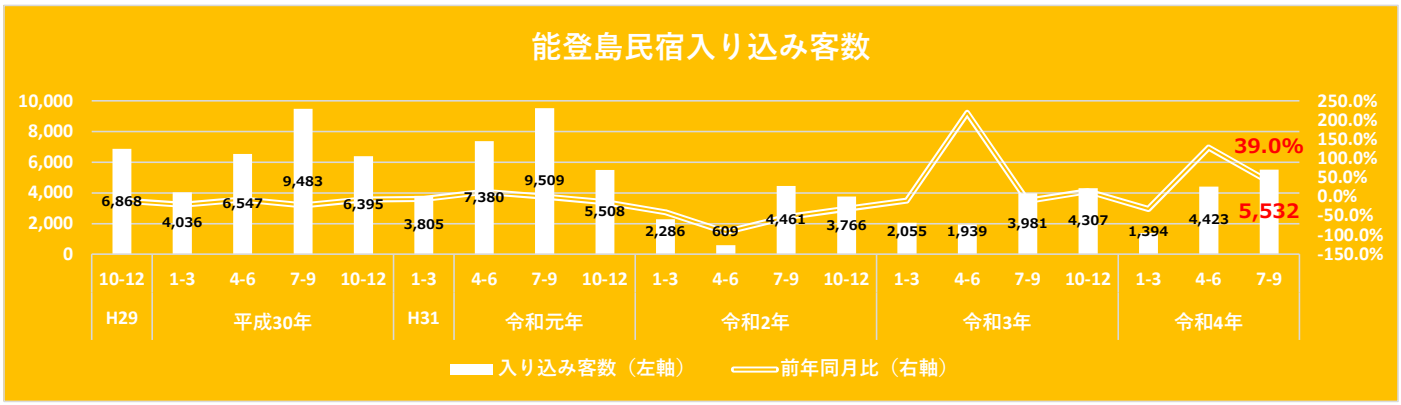
令和 4 年 9 月の石川県の延べ宿泊者数（第 2 次速報）は、606,210 人泊で、前年同月比 128.3%増（3 年前との比較 22.5%減）となりました。



令和 4 年 9 月の全国・外国人の延べ宿泊者数（第 2 次速報）は、816 千人泊で、前年同月比 179.0%増（3 年前との比較 90.1%減）でした。



令和 4 年 9 月の石川県・外国人の延べ宿泊者数（第 2 次速報）は、4,710 人泊で、前年同月比 361.8%増（3 年前との比較 93.0%減）でした。

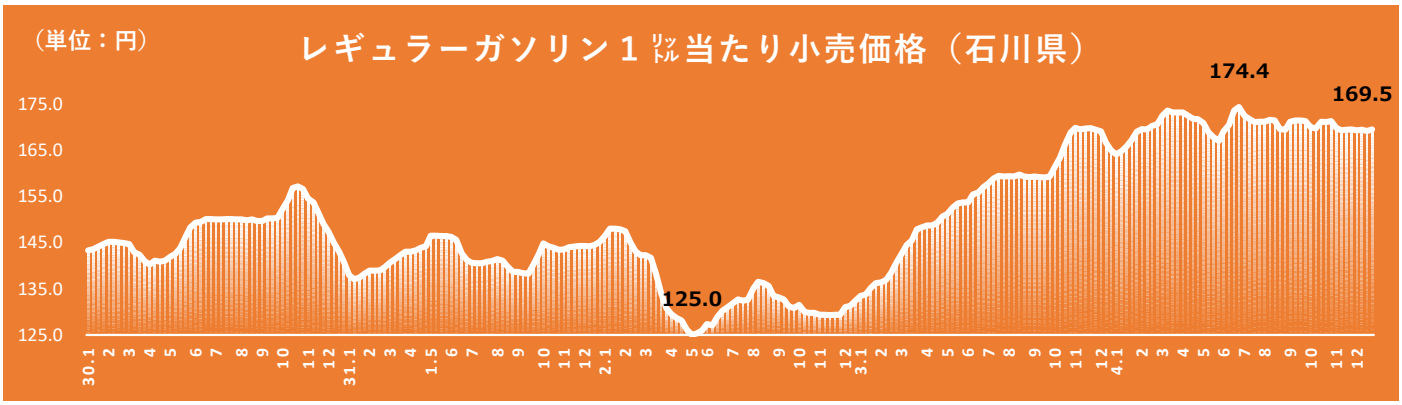


令和 4 年の第 3 四半期（7～9 月）能登島民宿入込客数（確報）は、5,532 人（7 月：1,616 人、8 月：2,515 人、

9 月：1,401 人）で前年同期比 1,551 人の増加でした。増加率は、39.0%でした。（3 年前同期との比較 41.8%減）2 四半期連続の増加。

◎レギュラーガソリン価格 1 ﾘｯﾄﾙ当たり小売価格

◆石川県の小売価格:（資源エネルギー庁：12 月 28 日発表）《更新》



石川県の令和 4 年 12 月 26 日時点でのレギュラーガソリン 1 リットル当たり小売価格は、前週より 0.3 円高い 169.5 円で、過去 5 年間で最も高かった 174.4 円と比較して 4.9 円安く、最も低かった 125.0 円と比較して 44.5 円高い状況です。